

天満屋倉敷店 2018年8月の画廊予定

◎ 4階美術画廊

会 期	内 容
8/1(水)～8/6(月)	<p>—十二支を描く— よしざわようこの世界展</p> <p>画家であり絵本作家のよしざわようこ先生の絵画展です。アメリカやオランダ、アフリカなどでの滞在、創作経験を生かし独特の世界観で厳しい自然の中で生きる動物たちのユーモラスな表情をやさしいタッチで描いています。ダイナミックな構図と鮮やかな色彩の組み合わせで描かれる作品は生命力に溢れ、その作風は観ている人に元気を与えてくれます。今展では、十二支をテーマに油彩画、版画合わせて24点を出品いたします。</p>
8/8(水)～8/13(月)	<p>—夏居のなかで— 福田参平作陶展</p> <p>京都の窯元に生まれ、近代陶芸界の巨匠・富本憲吉に師事した父・福田力三郎より伝えられた作陶精神を守り、中国宋時代磁州窯の掻き落しの技法と京焼の融和を念頭に自らの意匠を表現されている福田参平先生の倉敷天満屋では約4年ぶりの作品展です。中国古陶の青瓷・白瓷・天目・辰砂等の研究制作も続けておられ、その作品も併せてご紹介いたします。陶額、飾皿、壺、鉢、食器など約70点を出品いたします。</p>
8/15(水)～8/20(月)	<p>山江真友美展 —白がもたらす—</p> <p>倉敷市在住の洋画家・山江真友美先生の新作展です。山江先生は倉敷芸術科学大学大学院修了後、2011年秀桜基金留学賞を受賞され、1年間ベルギーへ留学。近年では個展を中心に活動される中、辻仁成、戸川昌子の小説の表紙にも作品が起用されるなど広く活躍される作家です。油絵具を使い、まるで陶器のように滑らかに描かれている花々は実在するものではなく、花の姿を借りて表現された艶めかしさと清潔感、そして緊張感が混在する作品です。新作約30点を出品いたします。</p>
8/22(水)～8/27(月)	<p>—日々の暮らしに彩りを— 1万円からの絵画お買得市</p> <p>「日々の暮らしに彩りを」をテーマに、お求めいただきやすい価格の油彩画、水彩画、版画をお買得価格で販売いたします。約60点を出品いたします。</p>
8/29(水)～9/3(月)	<p>ラピス会展</p> <p>異なるジャンルで活躍する県内在任の若手作家の異業種交流展として2011年8月に誕生したラピス会。毎年倉敷天満屋美術画廊の年末を飾るチェト会展メンバーの二世で構成され、親世代の才能を受け継ぎ薫陶を受けながらもお互いにジャンルを超えて切磋琢磨し独自の感性を磨いている。</p> <p><出品作家> 小谷栄次(倉敷ガラス)、金重潤平(備前焼)、児島慎太郎(洋画)、 内山直人(金工・ジュエリー)、松島千紗(テキスタイル)</p>

作成：美術画廊担当 国光

営業時間 毎日午後6時閉場

※8/7・14・21・28は閉廊日

いずれも会期最終日は、午後4時に閉場いたします。

お問合せ

天満屋倉敷店 販売計画

TEL 086-426-2205

FAX 086-426-1136

※会期・タイトルは都合により変更することがあります。